

家電品の省エネとメンテナンスの話

(1) エアコン編

室内機のフィルターのお掃除...基本中の基本です。自動的に掃除をする機種が発売されていますが、ほとんどの機種は自分でお掃除をするようになっていきます。室内機のフィルターは吸い込み空気の埃を除去する役目を行います。各社のフィルターはほとんど細かい網目のフィルターであり、ここに主に繊維質の埃が付着しますので、掃除機などで定期的に(月に2回が理想的です)掃除を行います。もし付着している埃が多いと空気の吸い込み量が減少し、冷房や暖房の効きが悪くなり、又それが原因で温度調節や風量調節を強めにする為に電気代がかさみます。

室外機の周辺の点検...エアコンの室外機は熱交換した室内の熱を外に放出する役目をしますが、大きな扇風機のようなプロペラファンを廻して熱を外に排出しています。その際放出する熱を空気の流れに乗せていますので、プロペラファンの空気の流れが阻害されますと効率が悪くなり電気代もかさむようになります。空気の流れが阻害されないように障害物を取り除いたり、余計なものを室外機のそばに置かないようにすると良いでしょう。庭などに設置した場合は雑草の除去なども大切です。特に夏が草が伸びますので。



右の写真は室外機の設置の悪い例です。出来れば周辺の植栽を除いて設置するのがベターでしょう

送風ファンのお掃除...送風ファンのヘリは埃が付き易く、特に油煙や微粒子の埃に繊維質の埃が付着して送風能力を落とすことが多々あります。メーカーにより簡単に掃除ができるものがありますが、ほとんどの場合手が届きにくいのですが、割り箸に濡らした端切れ等をしっかりくりつけて掃除をすることも送風能力の回復には効果があります。(機種により難しい物もあります)

専門家による室内機の掃除...一時手軽に掃除できるスプレー状の缶がヒットしましたが、室内機は細かい電子部品も入っておりスプレー等のメンテナンスは非常に気を使うものです。出来たら専門家(プロ)による掃除でしたら熱交換のアルミフィンや送風機(ほとんどが横に長いクロスフローファン)の汚れを取り除いてくれます。これにより熱交換の能力の回復や送風量の回復ができ、新品に近い能力になります。

扇風機の活用...冷房や暖房時に扇風機を併用すると冷房や暖房の効果が高まり、エアコンの能力のみでなく、扇風機の送風による冷房感が増したり、暖房時には天井付近の暖気の塊を拡散して部屋全体の暖房感が増す事が出来ます。特に、暖房時にはエアコンで暖められた空気は膨張して軽くなり天井付近にたまる様になり、これがエアコンの暖房の立ち上がり時に多く見受けられますので、扇風機を天井に向けてゆっくり目の風を送って暖房効果を高めることができます。

除湿機能の活用...省エネとは関係ありませんが、高温多湿の日本で、又現在の住宅は高密度高断熱になっており、室内で発生した湿気(水分)は屋内に滞留しがちです。特に6月以降の夏のシーズンはカビの発生が多く、カバンやバッグがかびたりすることがあると思いますが、温度の下がらない再熱方式の除湿であればカビ菌の不活性状態の湿度40%程度までの除湿は可能です。少し長めの時間除湿運転を行ってください。(カビに低湿度ショックを与えます)

送風機能も利用(サーキュレーター効果)...今販売されているエアコンは、空気清浄機能も付いているエアコンもあり、送風のみでの運転も可能です。フルに冷房運転を行うにはどうかと感じる少々暑さの時にエアコンの送風機能を使い、風向を調整して扇風機代わりに使う方法もあります。特に各メーカーの高級機はリモコンで風向を変えられるので便利です。